

---

★

## 【葛原Ⅱ】

浅田 茂 さん (70才)

---

★

葛原に焼夷弾が落ちたのは、6月初めの麦の刈り入れ前で、葛原の30軒余りのうち松浦さん、中川さん、それに浅田の分家の3軒と集会所が全焼、そして北口さん方が半焼しました。

私たちの家族は、父が40歳近くで出征したので、祖母と母ときょうだい3人でした。

おじにあたる人も召集がかかって戦地へ行っていました。

空襲警報が出ると、私たち家族と親戚の者2人は防空壕に入ったが、シャーシャーという音とともに爆弾が落ちてきた。

1トン爆弾ではなかった、と思うが、かなりの衝撃がありました。

辺りが少し静かになって、今度はパチパチと音がしたので、防空壕をでてみると、六角筒の焼夷弾があっちこっちで燃えていました。

家の防空壕は納屋の庇の下に掘ったもので、このまま入っていたら危ないから外に出よう、という母の言葉に従って、田んぼの中へ逃げました。

家の燃える勢いが強くなってきたので、おさまるまで田んぼにいました。

しかし、田んぼに落ちた焼夷弾は依然としてパチパチと燃え続け、家の前の神社の竹藪にも焼夷弾が落ちてひどく燃えていました。

現在の京阪牛乳の近く、対馬江寄りの田んぼに、何発もの不発の焼夷弾が固まって落ちて10メートルほどのすり鉢状の穴があいていました。

中西金属をねらったものがはずれたのかも知れません。

家は年寄りばかりで、2、3人がホースで水をかけるだけでしたが、家の火はおさまったので、田んぼを出て行きました。

怪我人はなかったのですが、不発弾が軒下に突き刺さり、しばらくは触るな、と言われて1年近くそのままにしておいたように思います。

お寺の庇にも突き刺さっていたし、農作業をするときに気付いたのだが、田んぼにも突き刺さっていました。